



修正版「蝶々夫人」のりハーサルの様子(4日、イタリア) 〓プッチーニ・フェスティバル財団提供・共同

## 「蝶々夫人」修正版 伊で上演 日本文化、正しく演出

【トッレデルラーゴ】  
共同】長崎を舞台にした  
作曲家プッチーニのオペ  
ラ「蝶々夫人」における

日本文化への誤解などを  
直した、日本人声楽家の  
岡村喬生さん演出による  
「修正版」が6日夜、イ  
タリア中部トッレデルラ  
ーゴで開かれたプッチー  
ニ・フェスティバルの野  
外劇場で上演され、詰め  
掛けた約2500人のフ  
アンを堪能させた。

岡村さんによると、こ

れまで海外の公演では蝶々夫人のおじの僧侶が、ちよんまげ姿だったり、着物の襟の合わせが逆だったりすることがあった。

このような誤りを正した上で、登場人物が座敷に上がる時には履物を脱いでそろえるなど、細部にわたり正しい日本文化の演出にこだわった。

岡村さんは「日本人役は日本人歌手に、外国人役は外国人歌手に極力演じさせるようにした」と話す。せりふに登場する日本語の誤りも修正しようとしたが、プッチーニの遺族の意向で断念した。

近隣の市から来たマンフレディ・ルチアナさん

(66)は「舞台装置や幻想的な演出が斬新で、とても感動的だった」と話していた。

「蝶々夫人」は明治時代の長崎を舞台に、米海軍士官と結婚した日本人女性「蝶々さん」の悲恋物語をプッチーニがオペラ化した。